

【生薬名】 知母 *ANEMARRHENAE RHIZOMA*

【起源植物】 ハナスゲ *Anemarrhena asphodeloides*



【科名】 ユリ科 *Liliaceae*、

【別名】 蜆母、一名連母、野蓼、地参、水参、水浚、貨母、蜆母など多数

【薬用部分】 根茎

【主成分】 ステロイドサポニン、ニコチン酸

【薬性】 気味は苦寒、帰経は肺胃腎に属す

【効能】 ●清熱瀉火・滋腎潤燥

●血糖降下作用、解熱作用、抗消化性潰瘍作用

●経験的に知母は実熱・虚熱のどちらにも有効である

●石膏とは違い高熱にも微熱にも解熱作用がある

●赤痢菌・チフス菌・大腸菌・緑膿菌・ブドウ球菌などに対しての抗菌作用がある *in vitro*

●神経系の興奮性を低下する、黄柏を配合すると性神経の興奮性を低下する

●知母は上は肺を清め、下に腎を瀉す。

●

【出典】 ●主治煩熱(薬徴続編)

●治消渴熱中、除邪氣、肢體浮腫、下水、補不足益氣。(神農本草經中品)

●知母 味苦、熱渴、能く骨蒸を除く、汗有り痰欬皆舒ぶ。(薬性歌)

【備考】 ●

●

【処方例】 ●二母散、白虎湯、酸棗仁、滋陰至宝湯、消風散